



逆瀬川 あゆみだより

NO.229 2026.8

社会福祉法人

聖隷福祉事業団

逆瀬川あゆみ保育園

宝塚市逆瀬川 2-2-8

TEL0797-77-0415

今年度、私は、7/8の通勤時に初めてセミの鳴き声を聞き、「夏がやってきたな・・・」と思っていたら、予想以上の猛暑で、なかなかの危険な暑さだと感じますね。子ども達が夏ならではの遊びを安全に、かつ楽しめるよう配慮しながら過ごしたいと思います。

10時以降のテラス遊びが、かなり難しくなっていくことが予想されますので、暑さ指数を計測し水遊びやプール遊びも早めに終えるなど、時間を調整しながら行いたいと思っています。

8月は終戦記念日があり、戦争についてのニュースに触れる機会がありますね。少し前になりますが、6/24の朝日新聞に沖縄慰霊の日についての記事がありました。その記事を読んだ時、出勤前にもかかわらず、涙したことをふっと思いました。中学2年生の亀谷 流奈さんが「生きたいと願った証」と題した詩を朗読した内容が掲載されていました。亀谷さんの曾祖母が、81年前に経験した沖縄戦について語った内容から、この詩がうまれ、この先も、語り継いでいくことの大切さが伝わってきました。

～あの日の沖縄には青い海も 優しい風もなかった 空は黒く 地面は揺れ 人々の叫び声が絶えなかった 爆撃の音が心まで壊していく まだ若かった曾祖母は 小さな体で必死に走った 血だらけの道を 倒れた人たちの横を
もう動かない人を見ながら 涙を流す暇もなく ただ生きるために そして 愛する夫の命を案じながら
「お願い 生きていて」その想いだけを胸に 足がもつれても 呼吸が苦しくても 転びそうになっても前へ前へと走った
しかし その願いはもう二度と届かなかった～

冒頭の書き出しだけでも、想像を絶する光景を中学生が想いを巡らせながら、この詩を書いたと思うと、胸が苦しくなりました。戦争を知らない私達が、子ども達に何を伝えていけばよいのでしょうか。シンプルに命は大切であること、争いからは、何も生まれないことを、伝えていくべきなのかも知れません。考えさせられた瞬間でした。

7/24 夏祭りごっこを園内で行いました。

ポテトにかき氷、魚すくいにボール転がし、ボール入れ、段ボール積み木等、お祭り気分を盛り上げるコーナー遊びを楽しみました。小さなクラスの子ども達もクッションに座り、ポテトを食べるまねっこをしたり、保育者に「あ～ん」と食べさせてくれたりとやりとりを楽しんでいました。小さな手でお土産バックに一生懸命入れようとしていた姿も、可愛かったです。今年初のかき氷は大人気で、食紅で作った美味しそうなカラフル蜜をミックスにしている子ども達がたくさんいて、「レインボーカラーが人気やったね」と職員とも話をしました。また、ボール入れのコーナーでは、ボールを入れた子と片付けたい子のバトルが繰り広げられるなど、様々な姿もありました（笑）

ひつじ組の給食の焼きそばは、ホットプレートで焼き焼き！夜店風にしたことで、3時のおやつ後に焼きそば屋さんごっこが始まり、実際に経験することの大切さをあらためて感じ、私達職員も、嬉しくなりました。これからも、どんな姿を見せてくれるのか・・・楽しみです！

辻田 紀子

～お願い～

☆協力保育が10日(月)～15日(土)までとなっています。
お仕事が急遽お休みになるなど、家庭保育が可能になりましたら、各担任にお声かけください。(食数の発注がありますので協力お願いします。)また、協力保育日以外でお休みが決まっている場合も、担任にお伝えください。
☆来月(9月)よりひつじぐみの保育参加会が始まります。
詳細は後日お伝えいたします。

8月の予定

礼拝 3・17・24・31日
協力保育 10日～15日(給食)

今後の保育参観・面談予定



面談 うさぎ組 9月～

面談 ひよこ組 10月～

保育参観 りす組 10月中旬～

～子どもには必ず「思い」がある～

1ページ目でなつまつりごっこのボール入れコーナーでのエピソードが書かれています。
ボール1つを子ども2人が取り合いを始めました。一見ケンカのように見えるので「ダメでしょ」「とらないよ」など声をかけてしまいそうになりますが、そこには子どもの思いがしっかりあります。
片付けの箱の中に全部のボールを入れて片づけをしたい男の子と、そのボールを穴の中にいれて、まだまだ遊びたい女の子。私たち保育士は子ども達同士のトラブルの時には、それぞれの子どもの思いを大切にしています。子どもが泣いたり怒ったりすることには必ず意味があります。
その子どもの思いに気づき、気持ちに寄り添いながら丁寧に関わることを大切にしています。



お誕生日おめでとう



5名のおともだち
すくすくと大きくなってね♪

信じれば救われる

「恐れることはない。ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われる。」



(ルカ8:50)

宝塚栄光教会牧師 岩間 洋

イエス様のもとに、会堂長ヤイロが来て、一人娘が病のために死にかけているので、家に来て助けてほしいと願い出ました。イエス様はすぐに彼の家に向かわれました。ところが途中で救いを求める女性によって、イエス様は足止めを食ってしまい、その間にヤイロの娘は亡くなってしまいました。ヤイロには一縷の希望も無くなってしまいました。しかし、イエス様は彼に、上掲の言葉を語られたのです。この期に及んで、何を信ぜよと言われるのでしょうか。イエス様を信ぜよと言われるのです。彼は信じました。すると、イエス様は、死んだはずの娘を生き返らせなされたのです。

私たちも、絶望状態に陥ることがあります。しかし、全能の神の御子であるイエス様を信じるなら、不可能な事も可能になります。イエス様は私たちのために十字架にかかって、罪のために死んでいた私たちの魂を生き返らせてくださいます。このイエス様を信じましょう。そして、救いをいただきましょう。